

学校教育環境調査の結果公表



町では昨年度、今後の望ましい教育環境のあり方を調査・検討するために、専門委員会を設置し、「学校教育環境調査」を実施しました。
今月号では、調査結果の概要等をお知らせします。

↑2学年が同じ教室で授業を受ける複式学級

減少する児童数と学校再編

現在町では、少子化の進行により、各小学校の規模が急速に縮小しています。

平成6年の児童総数は923人でしたが、平成23年には約半数の495人となりました。現在町内7校のうち複式学級を有する少人数校は、新庄小学校、菅浜小学校、丹生小学校、美浜北小学校の4校で、この内新庄・菅浜・丹生の3校は完全複式(すべての学年が複式学級)となっています。北小学校については1学級が複式となっていますが、平成26年には完全複式に移行する見込みです。

また、平成27年には、町内の児童総数が430人余りとなることが予想されています(下表参照)。

こうした児童数の激減を背景に、学校教育環境の変化に対応する重要な方策の一つとして、学校再編の議論が避けられないものになっています。

学校教育環境調査委員会が

アンケート調査を実施

町教育委員会では、このような現状を踏まえ、子どもたちの今後の望ましい教育環境のあり方を調査するために、昨年6月に「美浜町

学校教育環境調査委員会」を設置しました。

委員会は、関係機関(町議会や区長会、民生・児童委員協議会、PTA連合会等)の代表16人で構成され、少人数校の良さや課題を検討するとともに、望ましい教育環境と小学校の再編について保護者と住民の意識を知るため、アンケート調査を実施しました。

○学校教育環境調査委員会 委員 (敬称略)

三好 敏弘	西下 武司
橘 祥子	荒川 亨
宮下 紀興	兵庫 千鶴子
浜野 健治	澤 紀和
藤本 悟	嶋田 芳行
杉木 繁行	中西 恵美子
国立 政宣	秋山 裕行
中川 富枝	三好 多喜恵

小学校別児童数推計

(単位:人)

年度	H23	H24	H25	H26	H27
学校名					
新庄小学校	28	21	18	13	10
美浜北小学校	49	42	39	28	25
美浜南小学校	119	117	119	121	111
弥美小学校	165	146	141	133	136
美浜東小学校	104	111	119	116	123
菅浜小学校	15	15	14	19	21
丹生小学校	15	11	8	7	7
計	495	463	458	437	433

(平成24年1月5日現在のデータで作成)

アンケートの内容と結果の一部を公表します

アンケート調査は、小人数校に在籍する児童の保護者や地域住民を対象に実施し、小人数校の良さや課題、学校再編の必要性等について問いました。実施期間等の詳細は次のとおりです。

実施期間 平成23年9月5日～10月31日

調査対象

- 新庄小学校、北小学校、菅浜小学校、丹生小学校に在籍する児童の保護者
- 将来、上記小学校に通うことになる保育園児の保護者
- 上記小学校区に属する集落の住民(無作為抽出)

調査数 586件(小学校分74件、保育園分20件、集落分492件)

回収数 253件(小学校分70件、保育園分16件、集落分167件)

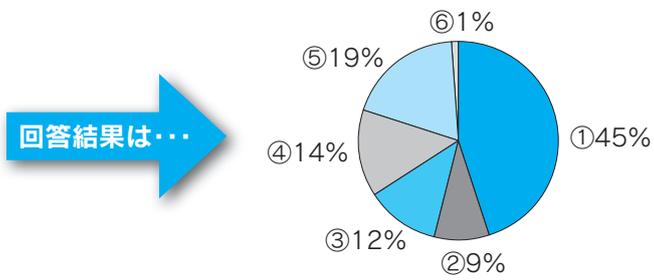
回収率 43.1%(小学校分94.6%、保育園分80.0%、集落分33.9%)



設問と回答結果 (※設問の一部を抜粋しています)

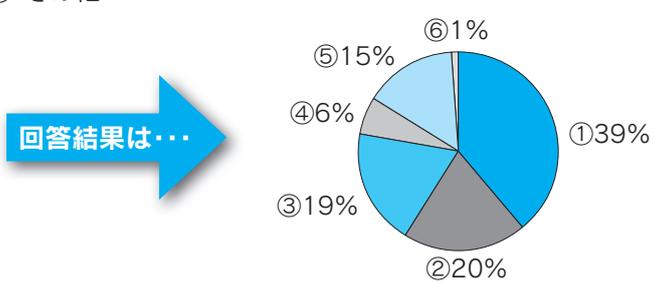
【問1】 あなたは小人数の学校の良さは何だとお考えですか。2つ選んでください。

- ① 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい
- ② 行事や活動等において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい
- ③ 個々の悩みへの対応や解決が容易である
- ④ 縦の交流が生まれやすい
- ⑤ 保護者や地域との連携が密になり、地域に根ざした学校づくりが推進しやすい
- ⑥ その他



【問2】 あなたは小人数の学校の課題は何だとお考えですか。2つ選んでください。

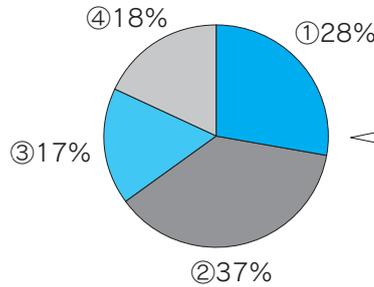
- ① 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少ない
- ② 運動会等の学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい
- ③ 人間関係や相互の評価等が固定しやすい
- ④ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある
- ⑤ 2学年同時の複式による学習では、教科により学習指導上の困難を伴う
- ⑥ その他



【問3】 あなたの校区の小学校について再編が必要かどうかについてお聞きします。

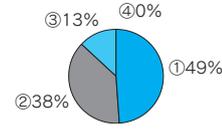
- ① できるだけ早い時期に再編が必要である
- ② 将来的に再編が必要である
- ③ 再編は必要ない
- ④ 分からない

回答結果は…

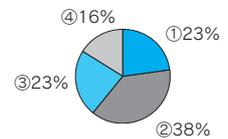


▷ 調査対象別回答結果

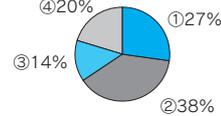
(保育園保護者)



(小学校保護者)



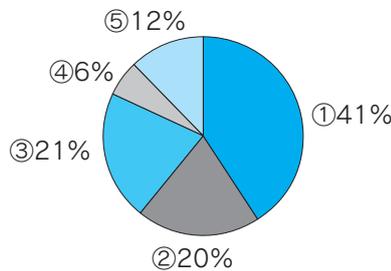
(集落)



【問4】 問3で、①または②と答えた方にお聞きします。なぜそう思われますか。2つ選んでください

- ① 小人数の学校では、集団の中で多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少ない
- ② 小人数の学校では、運動会等の学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約を生じやすい
- ③ 小人数の学校では、人間関係や相互の評価が固定しやすい
- ④ 小人数の学校では、集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある
- ⑤ 2学年同時の複式による学習では、教科により学習指導上の困難を伴う

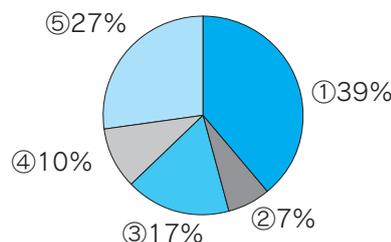
回答結果は…



【問5】 問3で、③と答えた方にお聞きします。なぜそう思われますか。2つ選んでください

- ① 小人数の学校の方が、児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい
- ② 小人数の学校の方が、行事や活動等において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい
- ③ 小人数の学校の方が、個々の悩みへの対応や解決が容易である
- ④ 小人数の学校の方が、学年間の縦の交流が生まれやすい
- ⑤ 小人数の学校の方が、保護者や地域との連携が密になり、地域に根ざした学校づくりが推進しやすい

回答結果は…



少人数校の良さと課題

学校教育環境調査委員会は、今年3月30日に、山口町長に調査報告書を提出しました。

報告書では、実施したアンケートの結果を踏まえながら、少人数校の良さと課題について、次の点を挙げています。

○少人数校の良さ

- ・ 児童一人ひとりに目が届き、きめ細やかな指導ができる。
- ・ 行事や活動において、児童一人ひとりの活動の機会が多い。
- ・ 地域学習が実施しやすい。
- ・ 学校と地域とが一体になって行事ができる。

○少人数校の課題

- ・ 集団の中で、多様な考え方にふれる機会や学び合い、切磋琢磨する機会が少ない。
- ・ 学校行事や音楽活動等集団活動に制約が生じやすい。
- ・ 人間関係や相互の評価が固定しやすい

65%が再編の必要性を認識

アンケート結果をみると、全体として、保護者と地域住民の65%が再編の必要性を感じていました。特に、保育園児の保護

者は、90%近くが現行の通園状況から再編が必要との回答でした。このことは、すでに保育園が再編されているにも関わらず、小学校では分かれて通学することに疑問を持っているからだろうと推測できます。

しかし、一方では、過疎化の進む中で再編すれば、集落の過疎化にさらなる拍車をかけるのではないかという不安の声や、学校は地域コミュニティの中核として存続してほしいという声も多数ありました。

調査委員会は、小学校再編の議論は避けて通れない問題だ



↑調査結果を報告する三好敏弘委員長(中)と橘祥子副委員長(左)

が、再編について賛否両方の意見があることを考慮すると、地域住民・保護者の合意形成なくしては、この議論は先に進められないとしています。

調査委員会の提言

調査委員会は、今回の調査結果を総合的に判断すると、少人数校を再編していく方向で取り組みを進めていくべきという結論を出しています。

そして、次の2点を提言し、報告書を結んでいます。

- ① 調査委員会解散後に、再編計画を具体的に進めていくための中核組織として、新組織の設置が望まれる。本委員会では再編の方向を示したが、その具体的な内容は白紙の状態である。新組織には、少人数校をどのように再編していくかや、再編に伴う諸問題にどう対応していくのか等、具体的なビジョンを検討し示していただきたい。

- ② 地域住民・保護者の合意形成なくしては、再編問題は先に進められないと考える。第1点と連動してこの課題に取り組んでいただきたい。

今後の方針

町教育委員会では、調査結果と委員会からの提言を踏まえ、今夏には再編について具体的に検討するための新組織を設置します。

また、保護者や地域の方々と意見交換会を実施していく予定です。

学校再編については、再編しても子どもたちを安心して学校に預けられること、また子どもたちが今までと同じように生き生きと学校生活を送れること、さらに地域も従来の伝統や文化を守りその活性化を図ることができること、これらの点に十分に配慮しながら、今後の方針を検討していきます。

※お問い合わせ先

学校教育課(担当・野原)

☎ 32-6708

アンケート結果と調査報告書は、町ホームページにも掲載しています。

